

神奈川県におけるウサギコウモリの記録

山口 喜盛・山口 尚子

Yoshimori Yamaguchi and Naoko Yamaguchi: Record of a Long-Eared Bat *Plecotus auritus* from Kanagawa Prefecture, Japan

はじめに

ウサギコウモリ *Plecotus auritus* は、非常に長い耳介に特徴があり、昼間の休息場や冬眠場に大木の樹洞や洞穴、家屋などを利用するコウモリ類である(阿部ほか, 2005)。イギリス, フランスから中国東北部, 日本などに広く分布し, 日本では, 北海道, 中国地方を除く本州, 四国から知られているが, 本州中部以南の確認例は少ない(阿部ほか, 2005)。神奈川県においては, 小林(1978)に箱根地域で採集されていると記載されているが, 石原(1991)は同地域から生息を確認していない。また, 前田(1984)と Yoshiyuki (1989)においても, 神奈川県からの採集記録は記載がなく, 神奈川県立生命の星地球博物館編(2003)の神奈川県産哺乳類目録にも記載されていない。

今回, 筆者らは神奈川県の丹沢山地においてウサギコウモリを確認した。神奈川県におけるウサギコウモリの確実な記録は初めてとなるため, ここに報告する。

確認状況

筆者らは2010年1月8日の13時40分に, 丹沢山地北部の神の川林道にある, 孫右衛門トンネルにおいて, ウサギコウモリ1頭を確認した(図1)。ウサギコウモリは, 長い耳を折りたたんで, コンクリート製の天井部分にある直径約5cmの円筒状の穴の中に入っていた(図2)。しかし, 翌日の昼間にはいなくなっており, 近くにある小瀬戸トンネル, 大瀬戸トンネル, 小洞トンネルでも確認されなかった。

この4つのトンネルにおいて, 2009年10月10日と11月5日(山口・山口, 2010), 及び確認した後の2010年1月9日, 1月11日, 2月22日, 3月22日, 5月22日, 9月2日, 10月22日に調査を行ったが, ウサギコウモリは観察されなかった。

周辺は, 神の川流域の急峻な土地で, シデ類やミズナラなどの落葉広葉林とスギやヒノキの人工林などがあつた(図3)。孫右衛門トンネルの構造は幅5m, 高さ4.5m, 長さ105mで, 標高は約560mであつた。内部はコン

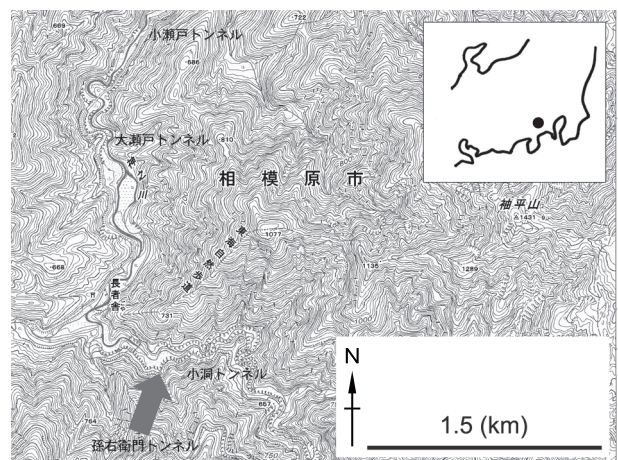


図1. ウサギコウモリが確認された場所。



図2. 穴の中のウサギコウモリ. 左右の長い耳(矢印)を折りたたんでいる。



図 3. 周辺の環境.

クリート製で照明はなかった。トンネルに行く林道には通行止めのゲートがあり、一般車は通行ができなくなっていた。

考 察

ウサギコウモリは、翌日にはいなくなったが、コウモリ類は冬眠中であっても一時的に覚醒し、冬眠場所を替えることがあるので（船越，2000），冬眠中であつたと考えられる。また，これまでに数回調べているにもかかわらず，一度だけの記録であつたことから，偶然にこのトンネルを利用したのかも知れない。

現在，神奈川県内において，ウサギコウモリが確認されているところは他にないので，今後，生息状況を調べておく必要があるだろう。

引用文献

- 阿部 永・石井信雄・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明，2005. 日本の哺乳類 改訂版．206pp. 東海大学出版会，東京．
- 船越公威，2000. コウモリ． 船越公威著，冬眠する哺乳類，pp.103-142. 東京大学出版会，東京．
- 石原龍雄，1991. 箱根の哺乳類． 35pp. 大涌谷自然科学館，神奈川県箱根町．
- 神奈川県立生命の星地球博物館 編，2003. 神奈川の自然図鑑 3 哺乳類． 138pp. 有隣堂，横浜．
- 小林峯生，1978. 神奈川県産哺乳綱目録． 神奈川県民部県史編集室 編，神奈川県史 各論編 4, pp.1035-1038. 神奈川県，横浜．
- 前田喜四雄，1984. 日本産翼手目の採集記録（I）． 哺乳類科学，(49): 55-78.
- 山口喜盛・山口尚子，2010. 丹沢山地のトンネルで確認されたコウモリ類． 神奈川自然誌資料，(31): 81-84.
- Yoshiyuki, M., 1989. A systematic study of the Japanese Ciroptera. 242pp. National Museum of Nature and Science, Tokyo, Tokyo.

山口喜盛：神奈川県立生命の星・地球博物館外来研究員
山口尚子：丹沢ネイチャーオフィス